



No.017

能登北部地域医療研究所

# のとけんだより



2014.06.01

## — 医学の第1歩を 地域医療から学ぶ —

### 金沢医科大学医学部1年生が 医療福祉体験実習で奥能登の地域医療を実体験！

金沢医科大学 能登北部地域医療研究所（所長 中橋毅教授）では、金沢医科大学医学部1年生 7名を受け入れ、医療福祉体験実習の指導を行いました（期間：2014.5.13～14, 5.15～16）。

当研究所では、公立穴水総合病院の協力で、在宅診療、兜診療所の見学などを内容としたプログラムを提供しており、医学生諸君に地域医療の現状を体験して頂きました（学生達は、少し実感できた様です）。総括・振り返りの時間では、医学生各自が熱く自分の思い思いを語り出し、帰学時間が過ぎても地域医療討論が続き、大変有意義な時間となりました。



島中院長への挨拶



高齢外来の見学



兜診療所見学

ある学生から、「穴水町の地域医療では、その人の人生を見据えた医療・介護福祉が提供されていることに気づきました」「地域や町民の方々は、病院や診療所だけが支えているのではなく、田舎のコンビニ（やぶこし商店）や村の自治会、公民館、婦人会や老人会等の協力が大きく影響しているんですね！」などの感想がありました。特に、兜診療所待合室の患者さんとの会話で、若い学生さんとお話できることが嬉しくて、患者さんの何人かが涙していたことが、とても印象的でした。

6年間の医学部生活が悔いのない有意義な時間となるよう心から願いつつ、常に患者さんやその家族の立場で診察できる医師になってほしいと期待をする次第であります。

<補足と説明>

この医療福祉体験実習は、医学生が、社会における医療と福祉・介護の接点について、早期に実地体験をすることにより理解を深め、将来医師となるために必要な学習の動機付けを行うことを目的としています。個別目標としては、このプログラムをとおして以下のことができることを目当てとしています。

- (1) 入所者、患者さんとコミュニケーションをとることができる。
- (2) 食事介助を行うことができる。
- (3) 入浴介助を行うことができる。
- (4) 諸検査介助などのエスコートを行うことができる。
- (5) 体験をとおして、医療および福祉・介護について自ら意見を述べるることができる。

## 医療福祉体験実習を振り返って

(G1: 2014.5.13～5.14)

金沢医科大学 第1学年 医療福祉体験実習

G1: 2014.5.13～14



石崎浩文



齊藤将哉



石黒恵子

#### ■MB4-0071 石黒 恵子

二日間という短い時間ではありましたが、地域の医療に触れるという点で、非常に内容の濃い学びの時間を与えていただきました。実習以前の授業で穴水の情報を少し得てはいましたが、その情報を自分の目で確かめることができ、学ぶことが多くありました。

病院に到着してまず感じたのは、やはりそのお年寄りの多さと、子供の少なさでした。見学した日がちょうど小児外来がお休みだったこともありますが、多くの高齢者の方が待合室にいらっしやるのを見て、高齢化率が高いということを実際に見ることができたように思います。その後の外来見学や訪問診療の見学では、医師や看護師と患者さん、そのご家族とのやり取りを見ることができ、とても勉強になりました。診察の場面で、あるいは会話の場面で、自分がこれからどのようなことを身につけていくべきなのかを考えさせられるような時間になりました。また、訪問診療に行った場所がかなり広範囲にわたっていたことには驚きました。診療自体よりも移動にかかる費用のほうが高いということを知ることがとても印象に残り、診療だけではなく患者さんの負担についても考えなければならぬことを学びました。

二日目の診療所見学では、たくさんの患者さんとお話しすることができ、診療所への思いや体の不調への思いなどを聞くことができました。中には隣の地区からきている方もおり、来院の仕方も様々でした。しかし、そんな方々のお話には必ずと言っていいほど、「診てもらいにきているのもそうだけど、ここにきてみんなとお話しするのが楽しい。」ということが言われていました。私は、それを聞いて、診療所はただ単に医療者がいて、具合の悪いところを診るだけの場所ではないのだと改めて感じました。さらに、前情報で出てきていた「やぶこし商店」にも行くことができ、そこで休んでお話をしていた方たちの輪に入ることができ、「みんながあつまって自由に話ができる場所」の重要性を知ることができました。

まだ右も左もわからない状態で、詳しいところまではわからなかったのが口惜しいですが、早いうちからこう言った地域の医療を見学することができてよかったです。さまざまな学び場を与えていただき、本当にありがとうございました。

#### ■MB4-0095 石崎 浩文

穴水にやって来て訪問診療と兜診療所見学に同行させていただきました。医学部に入る前から地域医療という単語は良く聞いていました。実際に地域医療の現場に立ち入ってみて思った事は、地域の人たちの明るさが想像以上であった事です。確かに私が見学したのは急患のような切迫した人ではありませんが、地域医療に活躍する人たちの姿が見ることができました。訪問診療では3件のお宅をまわりました。そこで訪問診療の意義や必要性そして患者さんに加えたその家族のケアの大切さを学ぶことができました。また兜診療所では地域の診療所の様子や実際に高齢者の方と会話することができ良い経験となりました。

未来の日本を映しているという高齢者率 40%を超える深刻な少子高齢化の進む穴水で医療福祉体験実習を行えたことは非常に大きな意義があると思います。自らが医師となった時には少子高齢化は正に日本社会の直面する大きな問題となっており地域医療の大切さや責任の重さもより大きなものに成っているでしょう。そういう点で今回、地域の人々と交流し地域医療における医師の役割、つまり人々のケアや健康予防その家族のケアであたりする様々なことが学ぶことができました。これらのことは将来、医療人として生きていくにあたって非常に大きな財産になったと思いますし、何らかのかたちで今回学んだことをこれからの大学生活、研修医生活そして医師となった時に生かせるようにしていきたいと思います。二日間という短い期間でしたが多くの方々にお世話になりありがとうございました。

#### ■MB4-0394 齊藤 将哉

医学部入学からまだ一年もたっていない中での体験型福祉医療実習であったために不安はあったが、公立穴水総合病院の皆様によく面倒をみていただいたので、上手く実習を終了することができました。実習では、病院実習は学年が上がるにつれて多くすることのことで、地域医療のために訪問診察などを中心とした医療を体験することができました。訪問先では先生がたの医療を間近で見せて頂いたり、実際に患者さん方と話す機会を与えて頂いたり医師としてのモチベーションが上がるようなことを体験できました。実習以外の場所でも中橋教授や木南先生、橋本さんや濱中さんに気さくに話しかけていただき、とても居心地の良い二日間を過ごすことができました。公立穴水総合病院に来ることができてとても良かったです。本当にありがとうございました。

(G2: 2014.5.15~5.16)

G2 実習期間:2014.5.15~16



成之坊果代 堀地萌香 田中 海 二宮 俊

#### ■MB4-0564 田中 海

5月16日から二日間、公立穴水総合病院にて実習をしました。この実習は将来医者になる上で貴重な体験ができたと思います。一日目は、病院の中を案内してもらいました。

MRI と CT の違いも説明してもらい興味を持ちました。そして訪問診療にご一緒してもらいました。計3件の家に行き、想像していたものと実際のは違いました。寝たきりの患者を介護する方のやさしさも感じることもでき、その大変さも感じることもできました。

2日目は兜診療所の見学をしました。穴水町は想像以上に過疎化が進行していて、子供、若者などはほとんど見かけず、年配の方がほとんどでした。兜診療所では、たくさんの方が来ていて待合室などで楽しく会話していました。その中に私も交ぜさせて、穴水町での生活を聞かせてもらいました。その後、やぶこし商店という地元のコビニのような店に行きました。そこにも年配の方が集まっていて、そういった集まる場所があって助かると言っていました。周辺には兜診療所しかなく、心筋梗塞や脳出血などの緊急を必要とする病気の時の対処法があまり整っていないので、心配する方も多いのではないかと思います。そういった地域の医療にもっと着目して地域医療の拡大をすることが、人々の幸せにも繋がると思います。

#### ■MB4-0667 成之坊 果代

能登に住んでいた経験もあり、穴水にも見慣れた風景が広がっているのを想像していたのですが、想像を遙かに越えた田舎町で高齢者の方々は車がないと病院への通院は困難だと思いました。老々介護とはよく耳にする言葉でしたが、実際に訪問診療の現場に立ち会わせていただいて老々介護の大変さを実感しました。兜診療所へも訪問させていただき、地域の方々とお話をさせていただく機会もあったのですが、皆様口々に兜診療所があってこそ長生きが出来るかと仰っていました。待合室には笑顔があふれ、和やかで、心落ち着く空間でした。地域全体で高齢者の方々を支え、日々の生活を送っている印象を受けました。この2日間で普段体験することの出来ない経験をさせていただきました。この経験をこれから生かしていきたいです。ありがとうございました。

#### ■MB4-0679 二宮 駿

五月十六日から五月十七日の二日間、公立穴水総合病院で実習させていただきました。自分は地域医療に興味があるので今回の実習で様々なことを学べて良い刺激を受けました。一日目で一番印象が強かったのは訪問診療でした。テレビなどで訪問診療の話は聞いたことはあったが実際どのようなものなのかはあまりわかりませんでした。訪問診療が必要な方は、交通の便が悪いところにいる方が多く、その家に向かうだけでも時間がかかり相当大変だと感じました。しかし、訪問診療先の奥様の笑顔やほっとした顔を見ると、ここ来る迄の長い移動距離の大変さを忘れさせてくれました。二日目は、過疎化している地域の診療所に行って診察風景を見させていただきました。普段自分が行っている病院と違い、

診察しに来る患者は全員高齢者でした。ここも交通の便が少なく近くにある診療所がここにしかなく、みんな顔見知りで待合室もにぎやかで病院とは思えないくらい活気づいていました。

二日間という非常に短い間だったが、地域医療の現状などがわかり、とても良い経験ができました。この経験を生かしてこれから頑張っていきたいと思います。

#### ■MB4-0760 堀地 萌香

公立穴水総合病院のある穴水という地域は 50 年後の日本の姿と言われ、人口の約 40%が 65 歳以上の高齢者です。今回の実習では穴水での地域医療がどのようなものかということをお勉強させていただきました。

特に印象深かったのは訪問診療です。訪れた先は私が思っていた以上に山奥でバスなどもほとんど通っていないようでした。また患者さんもその介護をしている方も高齢者の方で自分たちの力だけではやはり病院まで行くのが難しいのだと分かりました。診療中、中橋先生は患者さんに何か普段と変わった事は無いかという事を会話の中から見つける事が大事だとおっしゃり、患者さんや介護の方の話を熱心に聴いておられました。患者さんは、先生や看護師の方をとても信頼している様子で、快く私たちの見学も受け入れてくださいました。一ヶ月に一度という訪問診療であっても、その重要性を実感する事ができました。

近い将来日本は超高齢者社会になると言われています。そしてその日本の医療を支えていくのは今医学生である私たちです。今回の実習では地域医療では何が大切なのか、また今の日本で何が足りないのか、という事を考える事ができました。この医療福祉体験実習で学んだ事を糧に今後六年間努力を惜しまず頑張りたいと思います。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



フレッシュな1年生に喜ぶ島中院長



兜診療所見学



訪問診療体験



〇問い合わせ（濱中・橋本・濱崎）  
能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院内）  
電話 0768-52-0655 FAX0768-52-0658  
E-mail ccm@kanazawa-med.ac.jp  
〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島タ-8

※本文中の写真については本人及びご家族の方から了承を頂いております。